

第14回 番組審議会議事録概要

1. 開催日時

令和2年4月17日開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

2. 参加者

委員長：吉岡忍

委員：竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏
株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、藤沼聡

株式会社フジテレビジョン

永竹里早、大貫敦

ディスカバリージャパン株式会社

杉本将、高山真詩

株式会社ジュピターテレコム

森井健策、木村秀行

3. 議題

1) 「ゴールドラッシュ」 シーズン1 ep1

ディスカバリーチャンネルで放送

2) 「スパイストラベラー」第3話：南インドより、愛を込めて。 第4話：電車男

フジテレビNEXTで放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■ 「ゴールドラッシュ」 シーズン1 ep1

- ・ リアリティ番組大国のアメリカらしいスケールの大きさ、フロンティア精神や銃社会の問題、貧困格差など様々なアメリカを感じることができた。
- ・ 吹き替えもキャラクターに合ったものだった。
- ・ アメリカに脈々と息づく開拓精神や冒険心、そして現代アメリカの疲弊する白人層の社会矛盾、その両方をエンターテイメント性たっぷりで見せる秀逸な番組。
- ・ 一攫千金を目指す6人の男たちのチャレンジ精神は、下手なドラマよりも人々のハートを揺さぶると思う。
- ・ 日本でもこのような大掛かりなスケールの番組が制作されることを切に願う。
- ・ アメリカの視聴者にとっては、人生最後の一攫千金を求める番組のテーマ自体に共感す

るものがあり人気番組になっているのではと思ったが、日本人視聴者にとっては共感を得るのは難しいのではと感じた。

- ・ 登場人物の発言は吹替だと緊張感や危機感をいまひとつ感じない。字幕にして出演者の生の声を聞いた方がいいのでは？
- ・ どこまでが「リアル」でどこまでが「ヤラセ」なのか考えさせられる部分もあるが、これもディスカバリーらしい手法なので個人的には楽しめた。
- ・ スピード感やストーリーの転がし方、素材編集の仕方や数字の使い方、出演者の言葉の拾い方などは、いかにもアメリカらしい。ただラストは想像しやすくいつまでも記憶に残る番組ではない。だが、その手法を学び様々に駆使すれば低迷気味の日本ドキュメンタリーに新風を巻起こすことができるのではと感じた。

※委員からの意見に対し制作サイドから（ディスカバリージャパン 高山真詩）

- ・ 「英語版のHPは充実しているが日本語版のHPも充実させた方がいいのでは？」
回答：マンパワーの問題等もあり充実した内容の日本語サイトを設けることは難しいが、ディスカバリーの配信サービス“Dplay”でシーズン1～9を配信しており、各話のストーリーを確認いただけるようにしている。
- ・ 「アメリカ人にとって約束の地がいかに大切かを日本人も知ることができたが、よりよくわかるためにその文化的背景を解説するショートコーナーがあった方が良いのでは？」
回答：あくまでも番組本編を見て視聴者に理解していただくようにしており、わかりにくい点や解説が必要な部分がある場合は番宣等で補うようにしている。
- ・ 「吹替ではなく字幕の方が出演者の感情が伝わるのでは？」
回答：そういった面はあると思うが、字幕だと文字数の制約から会話内容の一部を割愛せねばならず、出演者が多く会話のテンポが速い本作は吹替の方がわかりやすく出演者の個性が際立つと判断した。
- ・ 「台本や演出はあるのか？」
回答：制作がアメリカなので、申し訳ありませんが弊社では把握しておらず、公表していない。

■ 「スパイストラベラー」 第3話:南インドより、愛を込めて。 第4話:電車男

- ・ 音楽系ショートムービーのようで、マニアックさも薄めなのでゆるく見ることができた。
- ・ 出演者するミュージシャンの人選が秀逸。Dragon AshやBiSH、サンボマスターそれぞれが期待通りの空気感を出し満足できた。
- ・ キャストの役割分担が明確かつ多面的な視点でスパイスを紹介しようとしていて、スパイスへの理解を深めることができた。

- ・ 宗教、文化、文明が織りなす様々な夢とロマンに思いをはせる秀逸な番組。映像から伝わる出演者のアクションと言葉だけで心と体に染みる、既存の料理番組の枠組みを超えた新たな手法を満喫できた。
- ・ 「平和のもとには美味しい食べ物」という締め言葉は、出演するミュージシャンならではの表現力の素晴らしさと、番組の構成力の高さを示していた。
- ・ カメラワーク、照明、事後のインタビューともスタイリッシュな映像で好感が持てる。しかし、テロップの字体と色が見にくいカットがいくつかあった。
- ・ 聞きなれないスパイスや料理の名前をスーパーしてくれることは非常にわかりやすく良かったが、出演者の発言スーパーは余計なシーンもあった。
- ・ 「難しい」番組。CS チャンネルとは何か、その視聴者層はどういうものか？そんな試行錯誤からできた番組だと思った。
- ・ 出演者の選択に疑問。位置付けを変えないとマイナス面のみが目立つ。服装や髪型も“汚い”印象で、せっかくの料理が美味しく感じられず、清潔感のある装いをお願いしたい。
- ・ ミュージシャンたちの「音楽と料理の共通点」のトークは違和感があり、あくまでも「音楽とスパイス」について語って欲しかった。
- ・ ウンチク対タレントという抽象的な進行で、何を伝えたいのかわからない。アーティストのプロモーションなら同じ制作費でもっと興味深いものが作れるはず。
- ・ チャンネルとして描きたい出演者像と番組像がうまく混じり合っていない。極端な素人性と専門性を一つの番組でどう融合させるかの試行錯誤なのだろうがあまりまとまってはいない。今後もチャレンジをしてほしい。

※委員からの意見に対し制作サイドから（フジテレビ 大貫敦）

- ・ 「番組スタッフは音楽番組の担当者？」
回答：音楽番組のみではないが、音楽番組にも携わっているスタッフで制作している。
- ・ 「音楽に関わる人たちを出演させ、音楽と料理の共通点を語らせることにどんな意味を見出しているのか？」
回答：MC二人が司会に慣れておらずトークに不安があったので、MCと親交がある同じミュージシャンをゲストにしたが、今後は他分野のゲストも検討している。
- ・ 「出演者の服装髪型が汚い印象で折角の料理が美味しく感じられなかったが、制作側の考えは？」
回答：髪型は番組スタイリストが担当したが服装に関しては出演者の自主性に委ねた。汚いとは思わなかったが、ミュージシャンゆえ派手で独特であったことは認識している。

※委員からのCS放送全体への意見に対し制作サイドから（サテライト・サービス 福本洋）

- ・ 「コロナの影響はCSにも及んでいるのか？やはりニュースに押されていて娯楽系は接触率が下がっているのか？それとも外出できないのでエンターテインメントが求められているのか？」

回答：CSは専門チャンネルも多く、原則としてチャンネル毎に規定ジャンルの番組を中心に放送している。情報収集の意味でニュースは重要だが、外出自粛による在宅率の高まりにより、他の映像コンテンツに接する時間も増えている。スポーツや音楽イベントが中止になった影響は大きいですが、それ以外の番組はコロナ前と変わらず視聴されていると認識している。

4, 次回予定

今回は令和2年8月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。